

【地域の概要】

- 岐阜県中南部に位置し、北部はおおむね平坦で、南部は県下最大級の工業団地、住宅団地やゴルフ場が点在する丘陵地である。
- 市内の農地面積は約838ha（田694ha 畑144ha）
- 東明地区は農用地面積が約160haあり、担い手による農地集積がある程度進んでいる地域である。
- 今後、担い手の高齢化や後継者不足による離農が増加することが懸念されている。

①取組開始前の状況や課題

農業への関心の低下

○農用地の割合の高い地域であっても、実際に農業（水稻）に携わったことのない子供たちが大半を占める。

○農業に対する関心が希薄になっていることから、生活の基盤である「食と農の距離」を見直すことが課題となっている。



田植え体験の様子

②取組内容

稲作の体験教室の実施

○東明地区の市立東明小の5年生35人を対象に、学校隣接の水田で農業体験教室を計3回実施。講師は地域の担い手である農業委員など8名が務めた。

- 5月 田植え体験を実施（手植え体験後、田植機による作業を見学）
- 9月 稲刈り体験を実施（鎌による手刈り体験後、コンバインによる作業を見学）
- 10月 ミニライスセンターで精米作業を見学



担い手による講話

③今後の展開と方向性

地域との連携強化

○小学校に隣接する水田で体験することによって、農業をより身近に感じ、関心を持ってもらえることが期待できる。
○体験教室を通じて、地域の方々との交流を深め、地域の一員としての認識を深めてもらう。

次世代の育成

○体験教室を通じて、農業の大切さを理解してもらい、次世代を担う農業者の育成につなげていけるように、継続して実施する。



稲刈り体験の様子